

# Tobu通信

鳥取県教育委員会事務局  
**東部教育局**  
 〒680-0061鳥取市立川町六丁目176番地  
 東教発 R 5. 1. 6 No.175  
<https://www.pref.tottori.lg.jp/t-kyoiku/>

## 他県出身の新卒新採の教職員への支援・育成を

局長 徳高 雄一郎

皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしく申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大は、令和2年から今年で丸3年が経過しました。ふり返れば、4年前の令和元年度から本県の教員採用試験は、教職員不足への対応のため他県にも受験会場を設置し、この期間継続して毎年実施してきました。近年は他県出身の新卒新採の教職員の採用人数が増加しています。

3月まで大学生だった他県出身の新卒新採の教職員は、親戚や知人のいない鳥取の地で、いきなり4月から授業づくり、学級経営、生徒指導、保護者対応、初任者研修など多様な業務と向き合いながら生活してきました。しかも、多くは初めての一人暮らしの生活です。鳥取の地で過ごす期間は、コロナによる行動自粛期間と重なることとなります。以前のように懇親を深める場がなく、子どもたちも、保護者も、同僚も、上司もほぼ常時マスク姿のため顔全体の表情はわかりません。そのような中で、経験が浅い上に鳥取の生活に慣れていない他県出身の新卒新採の教職員は、必死で頑張っています。

「ふるさと鳥取を思い、支えていく～ふるさとキャリア教育～」を推進するためには、まず、目の前にいる他県出身の新卒新採の教職員に対して、学校、地域、市町教委、県教委、みんなが協働しながらよりよい支援体制を構築していくことが必要です。

今年度も残り3か月となりました。年末年始で帰省をした他県出身の新卒新採の教職員は、エネルギーを充電したことでしょう。1月からまた、鳥取の地での教職員生活となります。

令和5年度以降も今のような状況は続きます。各学校現場において、個々の状況に応じて、引き続き全校体制によるあたたかい支援・育成をお願いします。

## 県教育センターへの長期派遣事業を活用した人材育成・教育の充実

県教育センターでは、長期研修生として現職教員を1年間受け入れ、テーマに沿った研究・実践を支援しています。昨年度と今年度は、「ICT活用およびICT活用の推進体制等」について個々が設定した研究主題に応じて研究支援、指導を行っています。派遣者の今年度の取組の一端を紹介します。

### 河上和寿教諭 (R3派遣者) 鳥取市立南中学校

#### 【研修期間中】

「ICTを活用した校務の効率化」をテーマに、所属校担当者と協議し、システム構築に向けて取り組んだ。

- ①校務支援システムの開発、試行、検証、構築
- ②生徒、保護者、教員対象の調査等をFormsで実施
- ③合唱コンクール、卒業式をYouTubeで同時配信

※職員の一員として職員会議に毎月参加し、進捗状況を確認した。

#### 【今年度】

○生徒のICT活用場面の拡大に向けた職員支援

- ・授業公開を通してICTを活用した授業の提案
- ・Googleクラスルームの活用促進 など (校内研修にて)



### 西谷亮祐教諭 (R4派遣者) 岩美町立岩美北小学校

#### 【所属校、岩美町への還元】

##### ①情報モラル教育の授業改革

岩美町情報活用能力系統表の見直し、町内教職員や所属校児童への情報モラル研修(授業)、町内教員に向けた授業動画の提供 (YouTubeで限定配信)



(出前授業の様子)

##### ②ICTを活用した授業のコーディネートとサポート

総合的な学習の時間への出前授業、プログラミング学習の実施、所属校教員のICT活用に関わる指導・支援、職員研修講師等

※町情報教育推進員連絡会のメンバーとして協働

#### 【専門性の向上、自己研鑽】

- NHKファシリテーター養成講座の受講 (ファシリテーター認定とその活動)
- Google教育者認定試験の受験



長期派遣事業は、学校長、各市町村教育委員会の推薦により研修生が派遣されます。派遣中は、各学校・教育委員会の課題を解決したり目指す姿を実現したりするマンパワーとして、研修生が各機関と関わり合い、専門的な知識・技能を身に付け、学校等に還元していくことが期待できる事業です。

ICT活用  
コーナー

## 慣れるから活かす ～次のステージへ～ ICTを活用したとっとり授業改革推進事業研究発表会

1月9日(水)鳥取市立南中学校を会場に、ICTを活用したとっとり授業改革推進事業研究発表会を行いました。東部地区は令和3・4年度の2年間、鳥取市立南中学校区の5校がICT活用推進地域の指定を受け、ICTを活用した新しい「ととりの学び」を実践してきました。推進校は先駆的な取組を行うとともに、その情報を県内に広く公開して普及を図ってきました。

ここでは、推進校の2年間の取組の中から参考にしていただきたいポイントをまとめました。また、鳥取県ICT活用教育アドバイザーである西田光昭氏の指導助言も紹介します。

### 【推進校から学ぶ5つのポイント】

#### ①まずは使ってみる「質より量」

- ・教師も児童生徒も一人一台端末を使い、慣れることから始める。
- ・カメラ機能（観察記録や動画撮影、板書記録等）やGoogle Workspaceのアプリを活用する。

#### ②課題の検証

- ・様々な課題を「使ってみたからこそ見えた課題である」と前向きに捉え、課題解決に向けて検証を重ねる。

⇒課題解決に向けての検証、その後の実践はICTの効果的な使い方につながる。

#### ③授業場面での活かし方「量より質」

- ・共有機能（学級や学年、職員間でのGoogle Driveの活用。アプリの共同編集機能）を活用する。

#### ④校務での活用

- ・授業での活用と校務での活用をつなげ、同じように活用できないかを探る。

#### ⑤学校長のリーダーシップ

- ・校長先生方の積極的な働きかけが、教職員の前向きな取組につながっている。
- ・保護者や地域の方々へも積極的に情報提供することが、ICTを活用した新しい「ととりの学び」を校区全体での取組につながる。

活用に向けての教員の行動目標(R4)

活用スキル1  
カメラ機能

活用スキル2  
共有機能

活用スキル3  
アンケート機能

～とっとりICT活用  
ハンドブック より～

3つの活用スキルがベースとなっていることが分かります。



鳥取市立  
倉田小学校

鳥取市立  
日進小学校

鳥取市立  
美保小学校

鳥取市立  
美保南小学校

鳥取市立  
南中学校

鳥取市立南中学校  
英語科公開授業

#### 教師の活用が児童の活用を引き出す

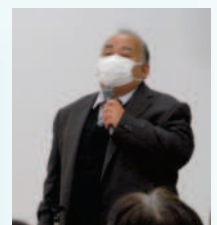
推進校が取り組んだように、まずは教師がICTを使ってみることが大切です。教師の不安のない活用が児童生徒の活用につながります。基本は、3つの活用スキルです。

#### 次のステージ ゴールはどこに

段階的に情報育成能力を育むことも大切です。小学校低学年のうちには丁寧に一人一台端末の活用の仕方を教え、少しずつ「自己決定」「自己調整」ができるようにしていきます。

#### 一人一人の子どもの主語にした学び

ICTは教師の指導の道具ではなく、児童生徒の学びの道具です。「教わる」授業から、「創り出す」授業へと転換し、「一人一人の子どもの主語にした学び」にしていきたいと思います。



鳥取県ICT活用教育  
アドバイザー  
西田光昭 氏



各校でもICT活用が進んでいると思います。推進校から学ぶ5つのポイントを参考にして、自校の取組を強化し、今後につなげていただければと思います。2月には推進校のこれまでの取組を「GIGAチャン」でお伝えします。詳細は、後日通知しますのでぜひご覧ください。